

がんサバイバーシップ研究支援事業

寄付金募集趣意書

2019年7月

公益財団法人がん研究振興財団

1. ごあいさつ（理事長 堀田 知光）

当財団は、がんの制圧に対する国民の強い要望により、国の政策のほか一般の方々からの浄財を有効にがんの治療や予防技術の開発に役立てるため、昭和40年12月に「がん研究振興会」して発足し、平成24年4月1日内閣府から「公益財団法人がん研究振興財団」として認可を受けております。

特に昭和59年度からは、国が実施する「対がん10か年総合戦略」がスタートし、官民あげてのがん研究が推進されてきました。

平成27年度からの事業として国のがん対策基本計画に基づく新たな国の戦略を踏まえ、企業の皆様からの賛助を募り、今までに無かった「がんサバイバーシップ」の研究支援事業を行っております。

これまでも企業の皆様にご理解・ご協力を頂きまして研究助成事業を続けて参りましたが、更に幅広くがん研究支援事業を推進することとしておりますので、これまで以上にご理解ご支援を賜りますようお願い申し上げます。

2. 財団の活動概要（別添「要覧」を参照願います。）

- (1) がん研究に関する研究の助成
- (2) がん研究に関する国際協力及び国際交流
- (3) がん研究に関する若手研究者の育成
- (4) がん研究に関する国民への情報発信
- (5) がん研究に関する国内外諸団体との連携及び協力

3. 寄付事業の概要

事業の実施に当たっては、がん経験者、企業、医療関係者、学識経験者等から構成される「がんサバイバーシップ研究支援事業運営委員会」において次の事項について審議します。

- (1) がんサバイバーシップ研究助成事業を体系的・全国的に支援・実施
- (2) 研究助成金による研究成果は、その評価を兼ねて発表会を開催（公開）

4. 寄付のお願い

国によるがん研究においても戦略目標としての具体的研究事項の一つに「充実したサバイバーシップを実現する社会の構築をめざした研究」が課題とされております。

患者本人や家族が本来の生活の場所（家庭、職場、学校、地域コミュニティなど）で暮らしていく過程で直面する様々な課題解決に関する研究については、研究実績が乏しいことから官民一体となった研究を推進する必要があります。

当財団では、企業等の皆様のご理解を頂き平成 27 年度からがんサバイバーシップ研究支援事業を立上げてまいりましたが、その成果に対して関係者から高い評価を頂いております。

つきましては、がんサバイバーシップの研究支援につきまして引き続きご賛同賜りますようお願い申し上げます。

寄付事業の概要

1. 事業の名称

がんサバイバーシップ研究支援事業

2. 目的

がんの診断や治療を受けた「その後」を生きていくプロセス全体として、がんが長く付き合う慢性病に変化しつつある今日、「診断から治療後も充実した社会生活を送る」ための研究支援を行うことを目的とする。

3. 事業主体者

公益財団法人 がん研究振興財団

4. 事業内容

- (1) がんサバイバーシップ研究を体系的・全国的に支援・実施
- (2) 研究成果を市民公開講演会等で発表し、広く国民に還元

5. 平成30年度事業実績

(1) がんサバイバーシップ研究支援事業運営委員会（委員）

	氏名	所属
委員長	石塚 正敏	跡見学園女子大学マネジメント学部 教授
委員	天野 慎介	一般社団法人全国がん患者団体連合会 理事長
	桑原 節子	淑徳大学看護栄養学部栄養学科 教授
	児玉 哲郎	栃木県立がんセンター 名誉所長
	竹内 朋子	東京保健医療大学東が丘・立川看護学部 准教授
	田中 徳雄	日本製薬工業協会 常務理事
	中川原 章	地方独立行政法人佐賀県医療センター好生館 理事長
	松田 周作	富士フィルム株式会社 再生医療事業部 マネジャー

(2) 平成30年度がんサバイバーシップ研究助成金交付者(10名総額500万円)

氏名	所属施設名	職名	申請研究課題名
平山 貴敏	国立がん研究センター中央病院 精神腫瘍科	医員	AYA世代のがん患者の交流サロン『AYA ひろば』の開発
全田 貞幹	国立がん研究センター東病院 放射線治療科	医長	頭頸部がんで化学放射線治療(CRT)を受 けた患者の晩期有害事象(嚥下障害)に関 する適正な follow-up 方法の確立に関する 研究
大久保 亮	国立がん研究センター社会と健 康研究センター 健康支援研究 部	特任研究員	必須脂肪酸・腸内細菌叢バランスとがん再 発恐怖の関連:探索的横断研究
石井 瞬	道ノ尾みやた整形外科	理学療法士	外来リンパ浮腫患者に対する運動療法支 援ネットワークの構築
松井 基浩	東京都立小児総合医療センター 血液・腫瘍科	医師	AYA世代がん患者の心理社会的困難及 び成長に関する調査研究 1年後コホート 研究
貞廣 良一	国立がん研究センター中央病 院 精神腫瘍科	がん専門 修練医	多目的コホート研究におけるがん生存 者の認知機能障害に対する予防対策解 明のための分析疫学的研究
松井 豊	筑波大学大学院 人間系	教授	がん及びがん体験者への偏見に対する 研修プログラム作成の試みーがんと恋 愛・結婚に着目してー
中谷 有希	国立がん研究センターがん対 策情報センター がん情報提 供部	研究員	AYA世代のがん患者に向けた療養支援 Webサイトの有用性に関する探索的研究
小山 美樹	東京女子医科大学病院	看護師	外来で経口抗がん剤治療を受ける脆弱 な高齢がん患者の QOL 維持・向上にむけ た患者教育
李 慶姫	東京医科歯科大学大学院 医 歯学総合研究科医療政策情報 学分野	博士課程	歯科診療所におけるがん患者の不安に 関する調査と歯科診療所向けリーフレ ットの開発

(3) がんサバイバーシップ研究成果発表会の開催

開催日:平成31年1月17日(金)

会場:国立がん研究センター新研究棟大会議室

6. 事業期間

第1期：平成27年度～平成30年度（4年間）

第2期：2019年度（令和元年）～2021年度（令和3年）（3年間）

（国の「がん研究10か年戦略」に基づく重点研究領域を踏まえ事業の更新）

7. 2019年度（令和元年度） 総事業費（収入・支出の内訳）

総収入	800万円	（寄付金収入の予定）
支出	800万円	
うち、事業費	800万円	
(1) 研究助成金	500万円	（@50万円×10名）
(2) セミナー等	300万円	
謝金	75万円	
旅費	75万円	
印刷・製本費		
	50万円	
機材等	100万円	

8. 寄付募集額（毎年募集）

募集額は明記をしておりますが、50万円以内を目安にご検討頂ければ幸甚です。

9. 募集期間

2019年度（令和元年度）分は、2019年4月1日～

10. 税制上の措置

当財団は「公益財団法人」の認定を得ていますので、本財団に対する寄付金は減免税の特典が受けられます。